No. 7
1995
3.15

250円

A.R.P
発行　〒606 京都市左京郵便局
私書箱57号 ARP
FAX：075-781-1253
郵便振替口座 大阪2-252923 ARP
定期購読料 3000円（10号分）

無政府 総進撃!!

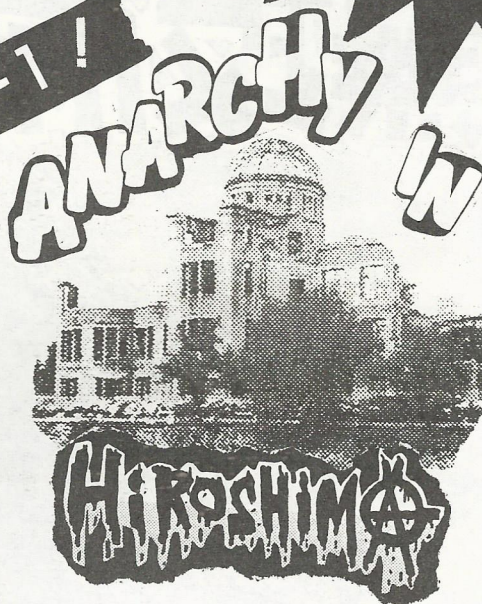
DISORDER is our POWER

ANARCHY IN HIROSHIMA

本号内容

灼熱地獄の 8.6〈広島〉無政府デモ 炸裂

無政府一番！スーパーアナ連ナンバー1！

ANARCHY IN HIROSHIMA

94年8月6日、広島において「戦争と国家を考える8・6ヒロシマ集会」が開催された。集会は、同集会実行委の呼びかけで、例年、アナキストのみならず反権力を闘う仲間の結集軸の一つとして、また相互討論の場として機能してきた。また今年は集会に先立ち「アナキスト祭－8・6亡国記念日実行委員会」の呼びかけによる青年アナキストらを中心としたデモンストレーションが街頭で闘われた。

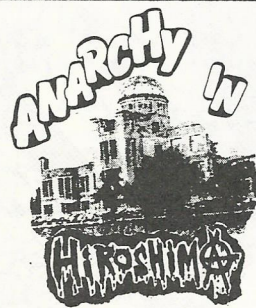
「護憲平和」を踏みしだき

午前8時、原爆ドーム前に黒旗がひるがえり、市民運動、「平和」運動団体の横目の視線が浴びせられる中、「国家解体」の巨大横断幕が拡げられた。約20名の戦闘的アナキストや反権力を闘う仲間が黒ヘルメットをカチッカチッと装着し、巨大拡声器で連続アピールに起った。数百メートル先で行なわれている政府＋広島市などによる官製の「平和祈念式典」の欺瞞性を暴露、糾弾した。「戦争を起こし、また今まさに戦争を遂行せんとしている国家が祈念する平和とは一体何なのか！」と国家権力のノドもとに無政府の黒い刃が突き刺さる。社会党が与党となった総翼賛、総保守反動状況にあって「反戦平和運動」に取り組んできた多くの市民団体は、この反動的平和祈念式典に異論すら唱えなかった。ここにこれまでの「平和反戦運動」の限界と護憲運動の本質、すなわち権力システムの支柱たる憲法を護る運動は、権力システムを補完するものでしかないという事実があるのだ。アナキストは明確にこの「平和祈念式典粉砕！」を掲げ、怒りのシュプレヒコールを、会場に届けとばかりに響かせた。

「わしらも偉くなった もんやのう」と…

朝8時とはいえ、すでに充分に熱くなった日差しを浴びて黒ヘルメット部隊はデモに出発した。約20名の無政府黒づくめ部隊は、まさに「黒い色が日光を吸収する」という事実を科学的無政府主義的に実感しつつ、スクラムを組む手もベッタリと汗ばって気持ち悪かったが、しっかりと戦列を整え「国家解体」の横断幕に続いた。隊列には黒旗、ガイコツ旗、全国水平運動研究会の黒荊旗、Ⓐ旗などが続く。我々のデモ隊に対し、広島県警はなんとフル装備の機動隊、約30名を対置させてきた。「この暑い中、機動隊が

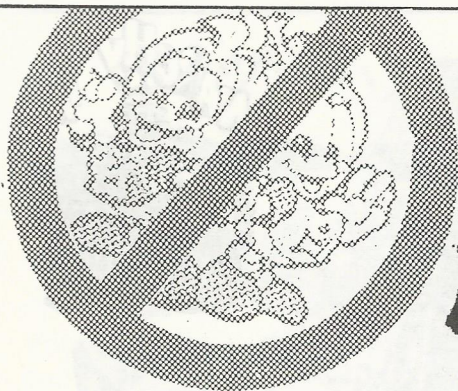
横断幕で機動隊を威嚇する
無政府地獄元帥（写真左）

ANARCHY IN HIROSHIMA

来るなんて…」「わしらも偉くなったもんやのう…」と感動する声が隊列からもれる。フル装備ロボコップ状態の機動隊は猛暑の日差しにゼエゼエと吐息を吐いている。このような機動隊への肉体的ダメージを強制しつつも、これは同様に我々にとっても暑く、つらいものだった。

新型シュプレヒコール炸裂

互いが汗だくのムシ風呂状態にある中、我々の新型シュプレヒコールが炸裂した。コール担当者が「シュプレヒコール！」と呼びかけると「オ〜イェ〜ス！」と部隊が呼応し「無政府一番！黒ヘル最高！スーパーアナ連、ナンバーワン！」と続いた。「スーパーアナ連」とは一体なんなのか？アナ連を超越したアナキスト戦隊、それがスーパーアナ連である。このコールはデモ前日から極秘に準備されていた秘密コールであった。ほかにニューアナ連やアナ連パート２もあるというから、無政府の世界は奥深いものである。

アナキストだけの独自デモだったゆえに「ヒロシマ死闘戦・県警 VS 組織暴力」となるのでは、との一部の予測もながれたが、街頭での並進規制、機動隊の挑発をはねのけ、デモを貫徹した。デモでパクられなかったぐらいで勝利と言えるのか、と自己に問いかけつつ、来年こそは「ヒロシマ死闘戦」を、との決意を仲間たちと込め、　８・６国家と戦争を問う広島集会会場へと向かった。

集会場の向かい側の会議室では「ＵＦＯと交信しよう」というナゾの団体が集会していて、実はそっちの方をのぞいてみたかったりしたのだが、８・６集会に参加した。集会では各地の闘争報告のほか、各人のアナキズム運動への関わりの中から、その可能性が討議された。スペイン革命のビデオの他、宮本三郎氏の伝統無政府ソングの熱唱もあり、参加者は魅了されたのだった。　——★

9.11アジア大会粉砕闘争

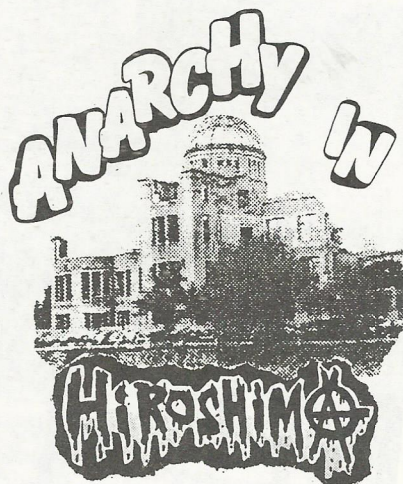
叛逆ドーピングでポン！

8・6広島デモに続く9月11日、無政府の黒い部隊は、再び広島の街に舞い降りた。再びアジアの盟主とならんとする日帝のもくろみを打ち砕くべく、アジア大会粉砕闘争に結集したのだ。広島はまだまだ暑かった。汗もべっとり、無政府一番搾り蔵出し生一丁の巨弾は再度ヒロシマを襲った。

夏の太陽が、じりじりと照りつけていた。9月、それは71年前、国家と天皇によって虐殺されていった朝鮮人、中国人、社会主義者、無政府主義者の怨念こもる月である。暴力支配は、今もなお、飽くことなく繰り返されている。抑圧され、虐殺された者たちの怨念を、あざ笑うが如く…。我ら無政府部隊は、利権と収奪の、醜く、無機質なコンクリート群のたち並ぶ広島の街に、再び登場したのだ。

むせかえる様な暑さのなかで、唯一、頭に浮かぶこと、それは「太陽が眩しくて…」じゃない！「破壊」、まさにその2文字であった。

さらなるアジア侵略を押し進めんとする日帝国家は、アジア大会を利用し、再びアジア統合の1ステージとせんともくろんだ。「国家元首」として開会宣言を行なう天皇アキヒトの役割とは「八紘一宇」の天皇イデオロギーを復活させ、国家総動員体制づくりのための民衆統合と国威発揚攻撃を強制するものに他ならない。「スポーツ振興」の名の下の「国民統合」、「国際交流」の名の下の「民族イデオロギー注入」であるアジア大会を我々アナキストは糾弾し、断固とした決意でもってアジア大会粉砕闘争に決起した。9月11日、原爆ドーム前の集会では広島や関西のアナキスト各グループがアピールに立ち「アジア大会粉砕！天皇制を解体するぞ！」との決意をそれぞれ述べた。「平和の都」なる欺瞞によって塗り固められた「ヒロシマ幻想」を撃ち、かつても今も「軍都」であり、「アジア侵略の進撃基地・広島」を徹底解体すべく、デモ隊は街頭へと飛び出した。「アジア大会粉砕！天皇制解体！PKO派兵阻止！」のシュプレヒコールが、無政府スピーカーから響き、アグリーな建物の隙間を突き抜けていく。無政府の嵐、叛逆の破壊神が、8月に続き再び広島を襲ったのだ。ぐ〜いぐいと進撃したデモ隊は、闘争を最後まで貫徹し、国家破壊、天皇制解体の熱い思いを訴え、今後の戦線のさらなる拡大を呼びかけて行動を終えた。また海外の仲間から、激励のアピールもあり、国境を越えた各種多様な闘いを創出していくことこそ、無政府金字塔を打ち立てる道であることを確認したのだった。怒りの黒い拳を爆発させろ！奴らを通すな！ ―――★

原爆ドーム前でアジア大会粉砕をアピール

建都1200年祭粉砕連続行動

都大路を黒く色彩る 無政府豪華絵巻〈京都〉

さる11月、京都において建都1200年祭粉砕行動が闘われた。6日、円山公園に結集したアナキスト、市民団体は降りしきる雨の中、三条河原に向け、デモンストレーションを出発させた。デモ隊よりも私服公安刑事の方がはるかに多いという、まったくもってやるせない気分であったが、「建都1200年祭粉砕！天皇制解体！」を叫び「侵略の1200年、天皇の都＝京都」を糾弾した。広島などから駆けつけたアナキストや反権力を闘う仲間も結集し、国家権力に死を宣告すべく、死の旗＝黒旗を高々と掲げ、都大路を真っ黒に色彩る「叛逆の豪華無政府絵巻き」をくりひろげた。京都府警が我々の弾圧のために送り出したフル装備の機動隊はなんと2名。またもやぐったりとした気分で、その怒りをシュプレヒコールの熱気へと転化しつつデモを貫徹した。

また翌7日には、京都－首都圏－西日本をつなぐ反侵略アジア学生共同行動94などの主催による学生集会も勝ち取られた。そして8日には、建都1200年記念式典会場へ向けたデモ行進が、約80名の戦闘的学生によって宝ガ池現地で戦取された。式典には天皇アキヒトが出席し、侵略の都＝京都を、徹底賛美した。また市内は天皇警備のために、戒厳状況におかれた。夕刻、四条河原町でビラまき情宣を行ない、京都市役所前までのデモを闘った。沿道の修学旅行の高校生からは、圧倒的声援が寄せられ、デモは歩道を進撃した。京都府警は、通称トミーズの雅と我々が呼ぶ四角い顔の公安を始めとして（むっちゃ似とる）、大量の警備公安刑事を投入し、むき出しの治安弾圧攻撃を加えてきた。このような弾圧体制を突破し、闘争の陣型を構築し、さらなる闘いへとつなげ無政府1300年、無政府1400年と、叛逆を継承した反国家 100連発、極悪総破壊ぐるぐる巻きの戦列を準備していこうではないか。権力者に無政府の怒りを！叛逆の狼煙を上げよ！我々の闘いに参加したい人、あるいはトミーズ雅公安を一目見たい人は、デモで会おう！

本紙編集部まで連絡を。　──★

建都1200年のアイドルマスコット「のぞみちゃん」

〈ギリシャ〉反国家無政府戦争

国家弾圧への熾烈な闘いをくりひろげるギリシャ・アナキスト

アナキストの闘いの激烈な地として知られるギリシャ。本紙でも以前、ギリシャのアナキストの活動を紹介したことはあるが、その戦闘性は、ギリシャ・アナキストの機関紙で「我々の闘いは、反国家アナキスト無政府戦争」との表現からも明らかなように、まさに「社会戦争」であり、ゆえにこそ、国家権力による弾圧もまた凄まじい。すでに多くのアナキスト戦士が、激しい闘争の中で倒れてきた。また、現在も獄壁の中での生活を余儀なくされているアナキストも忘れてはならない。国家は、むきだしの権力的憎悪を煮えたぎらせ、闘うアナキスト、反権力活動家らに徹底した弾圧を加えている。今回は、この間のギリシャでのこれら活動家に対する不当弾圧と重刑攻撃の状況、またこれへの反撃の闘いを紹介する。

G・ベラファスへの弾圧

「反国家闘争／ASS」メンバーであり、国家検察局判事殺害（84年4月）、警官殺害（85年5月）、「ギジの戦闘」として知られる警官3名の処刑戦闘などの容疑でギオルゴス・ベラファスは7年にわたり「第1級重要手配犯」として指名手配されていた。「ギジの戦闘」ではともに戦闘を闘ったELAメンバー、ツーツフィスが権力の手で虐殺されている。また彼らと交友があったというだけで2人の友人がデッチ上げ逮捕され、投獄されている。潜行中、ベラファスは地下から何度も声明を発し、自分はELAメンバーではないと重ねて訴えたが、彼がツーツフィスと親しかったという点、さらにベラファスの指紋がツーツフィスの隠匿していた拳銃から検出された「証拠」から、ベラファスが「ELAメンバー」と断定された。「テロリスト＝ベラファス」のキャンペーンの全国的包囲網の中で、92年12月2日ベラファスは逮捕される。ギリシャで悪名高い「反テロ法」のもと、彼には重刑攻撃が予想されたため支援グループやアナキスト諸組織による広範な支援行動が開始された。支援運動が日増しに拡大する中、これを封じ込めんとした警察当局はアナキスト活動家らに連続したデッチ上げ弾圧攻撃を加えた。

連続した弾圧攻撃

92年の暮れ、アナキスト活動家、E・スキフツリスが彼の同志、マリノスとともに「自動車窃盗」容疑で別件逮捕された。容疑はのちに反テロ法違反に切り換えられ2人は起訴される。（本紙3号で詳しく紹介）強力な支援が即座に取り組まれた結果、検察は「証拠不十分」として起訴をとり下げるざるをえなかった。面目を失った権力は、2人に「警官への武装襲撃」事件をデッチ上げ、再逮捕し拘留する報復に出た。

時を同じくして、公共秩序大臣（法務大臣に相当）が「テロリズムへの闘いの新局面」なる声明を発表し、反テロキャンペーンを展開、「アナキスト＝凶悪テロリスト」のイメージの浸透が謀られた。

一連の不当弾圧にギリシャで活動するアナキストの怒りは大爆発し、抗議行動や大衆デモ、さらには政府関連施設への武装襲撃が敢行され、この結果、93年1月、スキフツリスの無罪奪還が勝ちとられた。

獄中戦士メレティス

ディミトレス・メレティスは79年のギリシャ国立銀行アテネ支店の武装襲撃事件で、OTE（ギリシャ電気通信局）職員を殺害したとして逮捕、起訴された。第1審では終身刑、2審では懲役22年の判決を宣告された。メレティスは公判で「自らがアナキストたることを誇りをも

治安刑事に連行されるアナキスト戦士　G・ベラファス

C・ツーツフィス

「尊厳、自由、連帯は、
弾圧、監獄、権力より
何万倍も強力なのだ。」
― スキフツリス

って宣す」と叫んだ。また同銀行襲撃事件については、「現金奪取戦闘は私的な目的によるものではなく、アナキズム運動に資金を活用することを目的としていたのであり、これはすなわち全人民のためであり正当なものだ」と反撃した。また「銀行にある財産は、全て人民に存するものであり、武装襲撃戦闘は正義の闘い」と主張し、裁判官を圧倒した。81年下獄したメラティスは現在も「アナキスト戦士としての尊厳を守りぬく」として獄中闘争を闘っている。ギリシャにおいて戦闘的アナキズム運動を担ってきたアナキスト・コイル、アナキスト・インターベンション、アナキスト細胞らの代表的各組織は共同で声明を発表し、ベラファスら獄中にある同志への連帯と反権力闘争の拡大を訴えた。また国境、国家を越えての支援も呼びかけられている。以前、ギリシャのアナキストたちは、道庁爆破デッチ上げ裁判で死刑判決をうけた大森勝久氏への連帯行動に積極的に取り組んでくれた経緯もあり、我々も彼らの呼びかけに応えていかねばならない。かの地の闘いをこの地のものとして、今後も闘いへの注目と支援を続けていこう。

――★

CHAOS DAY 94 武装パンクス 資本襲撃・暴動戦闘

さる8月、ドイツ、ハノーバーで「カオス・デー」がパンクス、アナキストなどによって戦取された。当日は機動隊の他に悪名高いドイツ国境警備隊BGSや武装戦闘警察部隊SEKが大量に動員され、市内には厳戒警備体制が敷かれたがヨーロッパのみならず世界各地から駆けつけた戦闘的パンクス1000人以上は闘いを貫徹した。マクドナルド、高級デパート、銀行など、資本を象徴する反動的施設は次々と襲撃された。パンクスは市街戦で機動隊と対決し、武装警官を鉄パイプ、バールなどでボコボコにシバき上げたが、反動報復弾圧により 600名が逮捕された。一部のパンクス間で「内ゲバ」も起きた。アナルコ・パンク、ポリティカル系のパンクスと、いわゆるエクスプロイテッド・バーミー・アーミー系パンクスとである。　95年は8月4～6日の連続戦闘としてこの「カオス・デー」が、再びハノーバーで予定されている。すでに呼びかけのビラは何万枚もバラまかれ、「今度はあそこの銀行を襲うぜ」と襲撃計画も着々と練られつつある。今年よりも規模が相当デカくなるようだ。

無政府24時

●ポーランド・サンジカリストが声明

ポーランドでは、ポーランド・アナキスト連盟の活動が有名であるが、アナルコ・サンジカリスト潮流では「革命的サンジカリスト行動＝ARS」も活発な闘いを展開している。主に労働現場での闘いに主力をおき、組織化をはかっている。

ARSはこのほど声明を発表し、ポーランドの現状を分析、今後の闘いの指針を述べた。同声明では、いわゆる「民主化」の原動力であったハズの自主管理労組「連帯」の権力化と腐敗に抗し、真の戦闘的労働組合結成や私有化の阻止、また企業体の自主管理運営などが訴えられている。

●チャタヌーガ・サンジカリストの行動

アメリカ、テネシー州チャタヌーガ市のバス公社CARTAでは、黒人労働者への差別事件や女性労働者へのセクハラ事件が相次いでいた。これに抗議して、地元の黒人労働者組織プロジェクト（BWOP）は反撃の争議を組織。WSA－IWA（労働者連帯運動ー国際労働者協会）に呼びかけ、闘いを開始した。同市では、昨年も人種差別反対デモで地元活動家8人が不当逮捕、起訴攻撃をうけ、広範な支援闘争がWSAなどによって取り組まれており、サンジカリストの闘いのネットワークも拡大している。

●ハンガリー・アナキストの新ネット

ハンガリーで活動するアナキストらは3月、アナキストのネットワークを機構化した。これにはハンガリー・アナキスト連盟のみならず、反権力の旗の下に仲間が集い、交流、討論、共闘を目的として、ニュースレターが発行されている。当面は、紙面拡大して定期発行をめざすとのことである。ハンガリー社会では、『ジプシー』（＝ロマ人）に対する差別が根強く、極右勢力が「ジプシー排斥」を煽動し台頭している。反レイシズム、反ファシズムの闘いが、早急に取り組まねばならない現在的課題ということである。

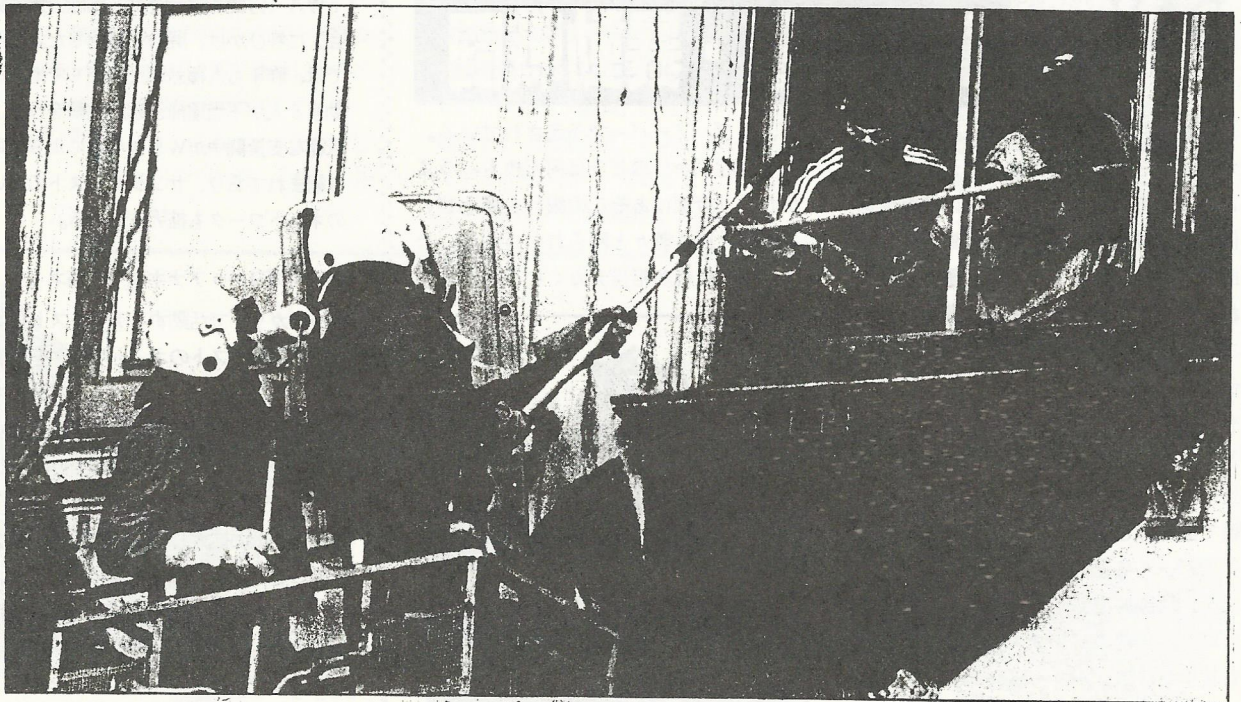
〈ドイツ〉ハンブルク占拠住宅への対テロ法弾圧

「禁止できるなら やってみろ！」

アウトノーメ、アナキスト 鉄パイプの反撃戦

94年11月、ドイツ・ハンブルクのハーフェン通りのスクウォット（占拠住拠）に対し、警察当局が「対テロリズム法」」を発動した弾圧を加えた。

ドイツでは、ナチスのハーケンクロイツ（カギ十字）のシンボルが、一応「禁止」とされているのはよく知られている。（実際は右翼に同調する警察当局のゆえ、野放し状態だが…）。一方、クルド解放のために闘うクルディスタン労働者党ＰＫＫや、同党の大衆戦線ＥＲＮＫのシンボルマークをドイツで掲げることが禁止されている事実はあまり知られていない。クルド独立を目指す同党の下に結集した欧州在住のクルド人移民らは、ヨーロッパ、とりわけドイツにおいてトルコ領クルディスタン（クルドの大地）での人権抑圧や、ドイツ政府とトルコ政府の連携したクルド人弾圧政策に抗議し、ドイツで闘いを繰り広げてきた。闘いが激烈果敢なゆえ、ドイツ政府も反動弾圧を強化し、デモなどで同党や関連組織のシンボルマークを、公に掲示することを禁止するという弾圧攻撃を加えた。

この反撃の闘いに連帯してきたアウトノーメ、スクウォッターらは、「禁止できるもんなら、やってみろ！」とハンブルク・ハーフェン通りの自分たちの占拠住宅の壁一面に、ＥＲＮＫのマークを大描きした。メンツを潰されたハンブルク警察は、約 100人の武装機動隊を投入し、このマークの強制消去弾圧を強行した。早朝、ハシゴ車で登場した機動隊は、黒いペンキ缶とサオ付きローラー・ハケで、壁を塗り始めた。この弾圧に抗議したアウトノーメらは、鉄パイプで応戦。警察はエンジンカッターやチェーンソーなどでドアを破壊して侵入しようとしたが、バリケード化されたドアは容易に開かず、壁ごとブチ抜いて家内への侵入を謀った。シンボルマークはペンキで消され現場での戦闘は終了したものの、この不当弾圧に抗議して、ドイツ各地で警察に対する報復戦闘がなされている。

防弾チョッキで武装した機動隊はローラーハケでペンキ強制塗布攻撃。アウトノーメは鉄パイプで反撃戦を闘った。

対テロ法により禁止となったＥＲＮＫの旗。

選挙にかわる直接行動を！

選挙ボイコット行動94〈ドイツ〉

94年はまさにドイツの「スーパー選挙年」であった。地方州議会選に始まり、大統領選や10月には全国連邦総選挙を迎えた。保守勢力がますます勢力を拡大し、極右ネオナチが台頭する中、ドイツ在住のトルコ人、クルド人、ベトナム人への差別排外攻撃は一層激化している。また「東独併合」で東西ドイツの経済格差は増大し、民衆は資本の論理、保守反動政策の犠牲となってきた。

これに対し、国際労働者協会（ＡＩＴ）ドイツセクションのアナルコ・サンジカリスト自由労働組合（ＦＡＵ）を中心に「選挙ボイコット行動94」が結成され、94年１年間を通じて選挙粉砕の闘いが取り組まれた。保守連立与党ＣＤＵ（キリスト民主同盟）、ＣＳＵ（キリスト社会同盟）、ＦＤＰ（自由民主党）のみならず、右派に屈伏したＳＰＤ（社会民主）などを糾弾し、大ドイツ帝国の再来阻止を訴えた。

以下に掲載したビラは、選挙立候補者演説会場や投票場で選挙ボイコット行動94がバラまいたものの要約である。

選挙粉砕！　直接行動！

『選挙は民主主義の原則」と信じる市民のみなさん！我々は選挙制度欺瞞を暴き、国家権力を糾弾します。ナチスはいかにして政権を獲得したのか？　ナチス突撃隊ＳＡによる暴力煽動の一方、最終的にヒトラーを政権に就かせたのは、「選挙」によってでした。難民ー亡命申請者や移民が社会の「害悪」とされ、「ヨーロッパＥＵの盟主、大ドイツ」の姿が政府によって描かれる現在の状況は50年前を思い起こすものです。国家権力に対しては唯一、直接行動のみが対置されるのです！選挙粉砕！』

拡大する反ネオナチ戦線

〈スペイン・マドリード〉

毎年、極右ファシスト各グループは、11月20日、マドリード・オリエンテ広場に集まる。エル・バジャ・カイードスで『フランコ総統』への忠誠を誓う儀式を行なうのだ。これに対し、アナーキストやファシズムと人種差別に反対するグループが結集し、連続してのデモが闘われている。昨年は，「『資本主義による搾取』『ファシズムによる虐殺』を我々の怒りで粉砕するぞ！」と描かれたスローガンの横断幕の下に、約3000人のデモ隊がアトーチャ通りをモリナトリソ広場まで行進している。当日はファシストによるデモ隊への攻撃が予想されたが、ファシズムと人種差別に反対するシュプレヒコールで市街を圧巻したデモに、ファシストは攻撃を加えることはできなかった。

ファシストの武装襲撃

デモ隊は、トリソ・デ・モリナ広場で一旦は解散したが、うち数グループが、普段ファシストの溜まり場となっているラ・プエルタ・デル・ソルに向かった。だがこれを待ちうけるかのように機動隊が地区一帯を包囲していた。これを突破しようとした部隊は機動隊と衝突し、13人が逮捕された。私服の治安警察隊がピストルを抜いて警戒し、機動隊も完全装備で登場するなど、まさに弾圧のために周到な準備がなされていた。機動隊との衝突が起こる一方、ファシストもデモ隊に攻撃を仕掛け、反ファシズム活動家２人がファシストのナイフで負傷した。

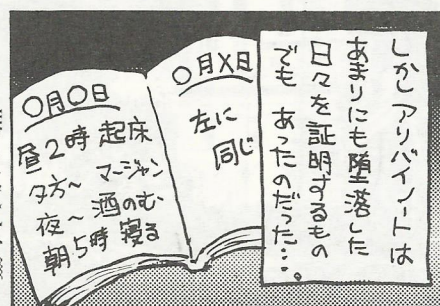
ラ・レ・デ・サンルイスでの対ネオナチ戦闘では、ネオナチ２名に攻撃を加えたが、のちにこのネオナチはドイツから来ていたことが判明している。

この混乱に乗じ、さらに機動隊が導入され、結果、一般市民を含めた30人が逮捕され（うち13人がアンチ・ファシスト）また、逮捕攻撃への防衛戦で、７人が負傷した。その後、アトーチャ、アントン地区でもネオ・ナチと衝突し、８人のネオナチを粉砕した。また他地区でもファシストの白色テロが加えられたと報告されている。ヌエボス・ミニステリオスでは、ホームレスがファシストに襲撃されている。台頭するスペイン・ネオナチ極右勢力に対し、反ファシズム、反ネオナチの戦線も拡大している。街頭での反撃のみならず、移民、難民支援の取り組みも行なわれている。本紙では今後も世界各地の反ファシズム行動、アンチファ運動の闘いを継続して紹介していく予定である。

No. 7
1995
3.15

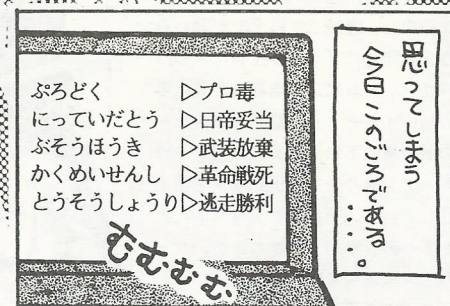
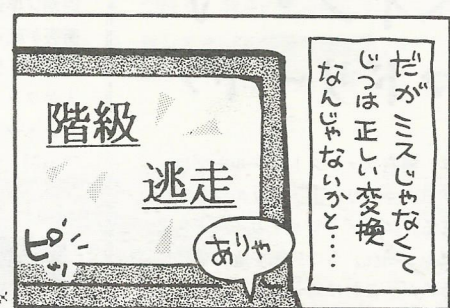
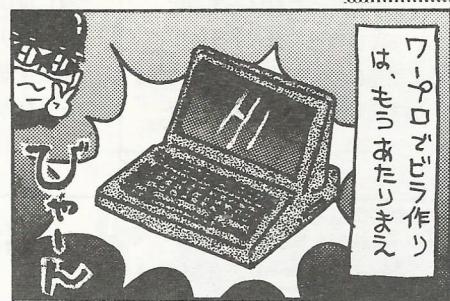
A.R.P
P.O.BOX 57
Sakyo, Kyoto
606, JAPAN

ゲバタリアン

作・下馬太郎

前号でゲバタリアンを休載したら、抗議が殺到しました。「毎号ゲバタリアンが楽しみなのに…」や「編集部の自己批判を求める」との声が相次ぎました。今回は、ゲバタリアン2発のスペシャルを掲載します。

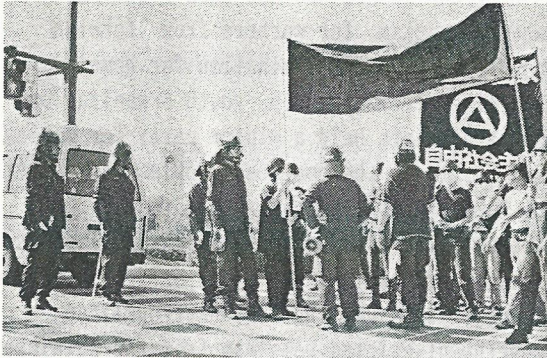
れんさい⑳

ノートは、5年分たまった…。

れんさい㉑

アシスタント募集

ゲバタリアンの下馬太郎先生がアシスタントを募集しています。先生が政治生命を削りながら描き続けてきたゲバタリアン。今では単行本化を望む声が多く寄せられるまでの人気まんがになってしまいました。そんなゲバタリアンをあなたもいっしょに描きませんか。申し込みは本紙編集部「アシスタントやりたい係」まで。めざせ単行本化。

ANARCHY IN JAPAN AUG/DEC, 94

ARP
P.O.Box 57, Sakyo kyoto, 606 JAPAN
FAX: +81/75-781-1253
Email: arpresist@igc.apc.org

6. Aug. Hiroshima

【6.AUG / Hiroshima】

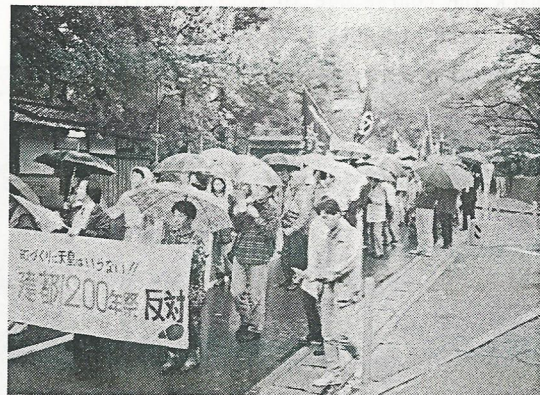
Anarchists' own demonstration and rally were organized by youth anarchist groups. Deapite the city of Hiroshima is known as the place where the first atomic bomb has been dropped, Hiroshima is still the city many factories prodicing weapons and war-material since the war-time. Anarchist claim that the government held "The wish for peace ceremony" is nothing but the political farce. Anarchists from sveral cities came to join this day action. More than 30 anarchists took part in the rally neverthless police reaction with the armed riot cops. After the rally, anti-state meeting was held in the small hall. Video of Spanish revolution has been shown. And discussion about perspective of anarchist.

6. Aug. Hiroshima

【11.SEP / Hiroshima】

Demonstration against the opening ceremony of Asian Athletic Games'94. More than 30 anarchists and citizen activists participated. Anarchists chanted "Smash the Japanese imperialist re-invasion to Asian countries!", and marched hoistingblack flags.

As we've seen in the history as Berlin olympic games in 1934, it is obvious that the state ruling power mobilize poeple through for cing nationalist ideology when such athletic games were to be held. This time, the Japanese state held so-called the Asian area Olympic games in Hiroshima. In the name of "asian-wide friendship", the Japanes imperialist state planned again to be the leader in Asia. People forced to give in the Japanese Emperor Akihito when he attended and declared the opening of the games.

6. Nov. kyoto

【6 ~8.NOV/ Kyoto】

Demonstration and actions against "the 1200 years anniversary of Kyoto city foundation festival". Kyoto has been the capital of Japan before Tokyo came to be the capital 120 years ago. The capital itself meant the city of the Emperor. Wholethrough the history of 1200 years of the bloody imperial governments, many people and indigenious people who used to live in Japan's several area, have been murdered. Elemntary school pupils were also forced to join the series of celebrating ceremonies organized by the local government. "Hinomaru"-so-called the national flag of Japan unfolded every corner of the streets in the city. At the main ceremony held in 8.Nov, the Emperor and the Empress came to attend from Tokyo, and

appealed to the citizen "The city of Kyoto is our respected great history and the very mind of the Japanese peope". The mayor Schäller from Frankfurt/Germany, which will also have 1200 anniversary next year, has attended.

6.NOV: Kyoto anarchists and anarchists from several cities such as Hiroshima, made rally with local citizen groups.

7.NOV: Radical students held meeting impeaching imperialist and nationalist policy of Kyoto city ruling powers. More than 40 students came to join from Tokyo metropolitan area and west part of Japan. It was organized as a pre-action which was expected to be held next days'rally. The city has been under a total control of plain cloths cops and heavily mobilized riot cops through the night.

8.NOV; Following to the yesterday's meeting, radical students made a rally toward the city conference hall where the ceremony took place. Demonstration was prevented and had to turn back the course due to police control. Anarchist students also participated.

7. Nov. Kyoto

【1.DEC/ Tokyo and Sendai】

The Japanese state executed 2 prisoners who have been in the death row. Despite both 2 were not political prisoner, one was a member of United Prisoners Union/UPU, andhe has been fighting against the terrible condition of prisoners in the jail. Neverthless he has been making a court appeal, the law authorities and the government rejected not only his rights but his existence itself.

【3.DEC/ Tokyo】

Anarchist gathering organized by the Anarchist Youth Center", the group who publishes "Anarchist Independent Review". "Possibilities in youth struggle" was the subject of the discussion at the gathering. The video on squatters movement in Holland was shown.

【25. DEC ~/ Tokyo】

The group Inoken who has been fighting against racism, for workers from "foreign countries" and discrimination for homeless, and other citizen group, youth organizations and anarchists held a winter party for making solidarity to the homeless people. The number of homeless are increasing due to the economical depression with which the Japanese society now face with. As the only solution to solve this issue, the Tokyo metropolitan government evicted homeless from the shinjuku station building where has been the only place homeless could sleep under the roof in this area. Many protest actions have been organized against this goverment policy hostiling homeless.